

犬ヶ岳・津民川地域には、ニホンジカやイノシシをはじめとする7目10科15種の哺乳類が生息していることがわかりました。その内訳は、一覧表で示しています。今回は、この調査で確認されたニホンジカの不思議について紹介します。



ニホンジカ

不思議Ⅰ 角の不思議

ニホンジカの雄には、成熟するにしたがって通常三つ又までに枝別れした角を持つようになります。しかし、繁殖期を過ぎると抜け落ちてしまいます。雌には一生角が生えることはありません。このことから雄の角は、繁殖期の雌の獲得と深く関係しています。ニホンジカは、一夫多妻の社会構造で、繁殖期には、それまで別々の群れで過ごしていた雌の群れに体格や角の立派な雄が入ってきます。この時に大きな役割を果たすのが角です。この角を立派なものにするために、樹木に角を突き立てます。これが林の中で見かける角研ぎの跡です。

一方、トナカイの雄・雌には角が生えます。

不思議Ⅱ 分布の不思議

犬ヶ岳・津民川地域には、民家の近くまでニホンジカの生息を確認できました。大分県でも国東半島や玖珠地域、そして県南地域に分布しています。しかし、その分布は、県下全域ではありません。なぜでしょうか。大分県は、比較的森林面積が多い県ですが、やはりニホンジカの生息には、自然林が必要です。その自然林が残されている地域に分布が限られているようです。



ニホンジカの足跡

不思議Ⅲ ニホンジカの糞

動物の糞やその仕方には、それぞれの動物によって特徴があります。

例えば、タヌキは、「ため糞」と言われる特定の場所に決まって糞をします。天然記念物のニホンカモシカも特定の場所に何回も糞をします。

実は、ニホンカモシカの糞とニホンジカの糞は、大変酷似しています。この2種が混在している地域では、森の中で糞を見つけても、すぐにはどちらの糞か判別できない時があります。このような時は、糞粒（糞の数）の数で判別しています。森や林の中で写真のような糞を見つけたときは、一か所で見られる糞の粒が100粒以下の場合は、ニホンジカの糞だと判断してください。



ニホンジカの糞

ニホンジカの分布と形態

ニホンジカの分布は、日本、ベトナムから中国東部、台湾、朝鮮半島などです。どの地域でも、林やその周辺及び草原です。それぞれの生息地域で亜種に分けられています。日本では、北海道のエゾシカ、本州のホンシュウジカ、九州のキュウシュウジカ、屋久島のヤクシカなどに分けられています。形態的には、雄は成熟すると体重100kgほどになります。雌は60kgほどになります。雄だけに生える角の大きさは、北方にいくほど大きくなるようです。妊娠期間は、220日くらいで、1回の出産では、通常1頭です。出産時期は、ほぼ10月の時期です。

犬ヶ岳・津民川地域で確認された哺乳類

・ コウベモグラ	・ アブラコウモリ	・ ニホンザル	・ ノウサギ	・ ムササビ
・ カヤネズミ	・ ドブネズミ	・ ハツカネズミ	・ キツネ	・ タヌキ
・ テン	・ イタチ	・ アナグマ	・ イノシシ	・ ニホンジカ